

令和4年度

入学試験問題（中学校）

B日程

国語

※解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

次の文章を読んで、下の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を一部省略した部分がある)

①日本にいて日本人としてくらしていると、日本のよさ、日本人のよさにはなかなか気づきません。なにかもが「あたりまえ」だと思ってしまうので、それが日本だけのものであるかどうかなどは、なかなか考えないものです。でも、海外でくらししたことのある人や、外国からやってきた人たちに話を聞くと、多くの人が日本のすばらしさ、日本人のよさを口にします。

「日本にはすばらしい文化がある」

「日本の交通機関の正確さ、清潔さ、安全性は世界一」

「日本の町ほど安全なところは世界のどこにもない」

「日本にいれば世界中のおいしい食べ物食べられる」

「日本の山や川、湖や海はすばらしい」

「日本人は約束を守り、礼儀正しい。外国人を差別しない」

そういう日本をほめる声はいくらでも聞くことができます。

もしきみたちのまわりに、外国でくらししたことのある人、外国から日本にやってきた人がいたら、ぜひ日本のこと、日本人のことについて、正直な感想を聞いてみましょう。そうすることで、ふだんきみたちが気づいていなかった日本のよさ、日本人のすばらしさについての知識を得ることができると思います。

また、いますぐはむりだと思えますが、もう少し大きくなって海外に留学したり、旅行をしたりするチャンスがあったら、ぜひ行ってみてください。(①)ということわざがありますが、人に聞くよりも自分の目でたしかめるほうがずっと印象に残ります。

そして、外国の人が日本について書いた本も読んでみましょう。ちがいを知るといのは、ものごとを理解するためにとっても大切なことです。きみたちにとって「あたりまえ」のことがあたりまえでない人たちの目で見たら、きみたちのまわりの世界はどう見えるでしょうか。知ってみたくありませんか。それと同じように、きみたちも自分たちとほかの人の「ちがいを」に注目してみることです。世の中にはいろいろなちがいがありますが、それらをよく知ること、むやみにちがいをおそれなくしていくことがわかります。それは、差別やいじめをなくすために必要な一歩です。

②人類の歴史の中で、争いがものごとを解決した例はありません。一時的に戦争で決着がついたように見えることでも、その後時間が経つと新たな争いの火種ひびねになっていたりします。(a)、やられたほうはくやしさを引きずって、チャンスがあればやり返そうと考えるからです。

問一 (a) (c) に入る言葉として、最も適

当なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア たとえば イ しかし

ウ だから エ なぜなら

問二 (①) に入ることわざを答えなさい。

問三 部②「それ」の指している内容を答えなさい。

戦争で問題を解決しようとしたらいちばん新しい例は、アメリカが起こしたイラク戦争です。イラクがアメリカに敵対するテロリストを援助しているとして、アメリカはイラクをボロボロにしてしまいました。それでなにが起こったかというところ、イラクの政情不安から、また新たなテロリストが発生しているというまずい状況です。

戦争で負けた国は、政府の統治機能がたがたになるため、病気で死にかけている人のような状態になります。放っておくと国が分裂したり、よその国が新たな戦争を仕掛けてきたりするので、勝った国は負けた国のめんどうをみなければなりません。戦争にはたくさんのお金がかかりますが、負けた国のめんどうをみるのにもお金が必要です。それだけでなく、戦争では勝った国も負けた国もたくさん人が死に、ケガをします。そのめんどうをみるのもたいへんです。

戦争は国と国とのケンカですが、きみたちもよくやる、個人対個人のケンカはどうでしょうか。話し合いをするよりもケンカで決めたほうがかんたんですか？そんなことはないですね。ケンカは勝ったほうも後味あとあじがわるく、いつまでもいやな思いを引きずります。それに、ケンカで決まったことはあまり尊重する気になれませんね。

(b) 争いはものごとの解決にはなりません。それなのに、おとなも子どももつい争ってしまうというのは、みんながまんが足りないのです。わたしは、どうしても意見が合わないときには、考えながら待つようにしています。^③「いますぐ」とことを急ぐからがまんできずに争いに走ってしまうのです。人の生き死にかかわるようなこととでなければ、世の中に本当の「いますぐ」^④はありません。せっかちになりがちな気持ちを落ち着かせて待っていれば、必ず話し合いの糸口ができるものです。

(中略)

③世の中が便利になって、いろいろな意見がすぐに世界中を駆けめぐることができるのに、なぜか自分の頭でものごとを考えようとする人が減っています。考えるという行為はともエネルギーをつかいますから、だれかに適当な意見を見つけて、それに乗っかれれば楽だと思ふ人がふえているからでしょう。

でも、考えずに行動をするのは動物と同じです。考えないと自分が成長しません。それに、世の中がいつも同じで変化しないのなら、前にうまくいったやり方をまねするだけで生きていけますが、残念なことに世の中はつねに変化を続けていますから、きのうまでうまくいったやり方があっても通用するとはかぎりません。変化する環境で生きぬいていくためには、やはり自分の頭でものごとを考え、判断していくのがいちばんです。

(c)、世の中には悪い人がいて、人をだまして自分が得をしようと考えています。自分の頭で考えない人は、そういう人のうそや悪だくみにかんたんに引っかかってしまうのです。レミングという動物は大きな群れをつくって移動しますが、ときとして海や川に飛びこんで集団が全滅することがあります。考えずに、ただ前の人にしたがって行動していると、いつかレミングのような目にあうかもしれません。

問四

部③、④について、「いますぐ」という言葉が用いられていますが、部で「」が使われているのはなぜか、解答らの形式に従って簡潔に説明しなさい。

ただし、いきなり「自分で考えろ」といわれても、とまどってしまうかもしれません。考え方を教わらないで、自己流で考え方を身につけられる人は、そう多くはないはずですが、その場合は、まず尊敬する人のやり方をまねしてみるといいでしょう。

④ ふつうに生きていけば、きみたちはまわりのおとなより長く生きるでしょう。いまはおとなたちが世の中のことを決めていますが、あと十年もすれば、きみたちが世の中のことを決めていかなければなりません。「えー、いやだよ」といつても、だれも代わりにはやってくれません。

よりよい世の中をつくり、少しでも多くの人をしあわせにして、次の世代の人たちに豊かな可能性のある未来を残す。それが、おとなの人間がしなければならないことです。

駅伝というスポーツは、前の人から託されたタスキをかけて走り、少しでも早く次の人にタスキをわたすものです。毎年お正月には箱根駅伝という関東の大学が参加する駅伝に、多くのファンが集まります。テレビを見ている人の数だけでも、ものすごい数になるといいます。

⑤ 人が生きている世の中は、無数の駅伝チームと無数の駅伝ランナーで支えられているようなものです。自分ひとりで生きているようではないながら、人間はみなだれかに生かされています。どこからか与えられたいのちを燃やし、いろいろな人たちと関係をつくり、助けられ、また助けながら生きていきます。そして、いのちが尽きる前に目には見えないタスキをだれかにわたして死んでいきます。

そういう世の中のいとなみを感じる事ができたなら、いのちの大切さや争いの無意味さに気がつくことでしょう。戦いで強いことよりも、がまんしてゆるすことのできる人のほうがえらいことに気がつくことでしょう。わたしはきみたちに、そういうおとなになってほしいと思います。そして、いのちを守る日本国憲法をよく読んで、たとえ憲法を変えることになっても、「いのちを守る」という大もとの部分まで変えてしまわないように、きちんと考えて行動してもらいたいと思います。

日野原重明『十代のきみたちへ ―ぜひ読んでほしい憲法の本』

問五 部⑤「人が生きている世の中は、無数の駅伝チームと無数の駅伝ランナーで支えられているようなものです」とありますが、どういことですか。説明しなさい。

問六 この文章全体を内容上四つに分けそれぞれに、①～④の番号をつけました。筆者が内容をふまえてそれぞれ題をつけています。① ②は次に示すような題がつけられています。③ ④について、語群の中からそれぞれ適当な題を選び、記号で答えなさい。

- ① 日本のよさ、日本人のよさをもう一度考えること
② 争いでものごとは解決しないと知ること

ア 自分をみがき、成長させてくれる人との出会いを大切にすること

イ 頭にきたら、少し間を置いて考えること

ウ いのちの尊さや大切な人との出会いを知ること

エ これからの世界をどうするか。それはきみたちが決めること

オ まわりの意見に流されず、自分の考えでものごとを判断すること

次の文章は、岩崎夏海「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」の一節です。川島みなみは高校二年生の夏から野球部のマネージャーをすることに、野球部を甲子園に連れて行くことを目標にした。部員は練習をサボってばかりでみなみは困っていたが、偶然組織経営の本であるドラッカーの『マネジメント』に出会い、それを参考にして野球部をマネジメントしていくことにした。一方、二年生の二階正義は野球が一番下手で補欠であったが、練習にはいつも一番乗りで、グラウンドを後にするのにもいつも一番最後という真面目な部員であった。正義もドラッカーの大ファンであったことから、みなみと野球部のマネジメントについていろいろと話すようになった。以下の文章はこれに続く場面である。これを読んで、下の問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を一部省略した部分がある)

野球部に起きたもう一つのできごとは、二階正義がマネジメントチームに加わったことだった。以前から、みなみは正義をマネジメントチームに引き入れたいと考え、何度かそのことを持ちかけたことがあった。

しかしこれまでは、正義が頑なに拒んできた。というのも、正義は正義で、せっかく野球部に入ったのだから、あくまでもレギュラーを目指したいという、強い思いがあったからだ。たとえ誰よりも下手であっても——いや下手だからこそ、実力で勝負したいというこだわりがあった。

そのことを知って以降は、みなみも正義をマネジメントチームに引き入れようとはしなかった。それでも、マネジメントについて相談したり、アドバイスを求めたりすることはずっとしていた。みなみの近くにいる人間で、ドラッカーに詳しく、またマネジメントに造詣が深いのは、正義をおいて他にいなかったからだ。

しかし皮肉なことに正義がマネジメントについてアドバイスすればするほど——みなみのマネジメントが進めば進むほど、部員たちの実力は向上した。おかげで、正義が選手になれる可能性は一向にふくらまなかった。もちろん、正義も実力を伸ばしていたのだけれど、他の部員たちの伸びはそれ以上だったのだ。

そんなある日、みなみがいつものようにマネジメントについての相談をしていると、ふいに彼女の顔をまじまじと見つめた正義は、こんなふうに切り出してきた。

「あのさ……」

「ん?」

と、それで正義の様子がいつもと違うことに気づいたみなみも、彼の顔をまじまじと見返した。すると、その視線を避けるかのように横を向いた正義は、言い淀むようにして少し沈黙した。それでも、みなみが黙って待っていると、やがて視線を戻してこう言った。

①「おれにも、マネジメントを手伝わせてくれないか?」

こうして、それまで監督の加地、キャプテンの星出、それにみなみと文乃と三人の新人マネージャーを加えた七

問一 部(a)～(c)の語句の意味として最も適当なものを、それぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

(a) にわか

ア 徐々に

イ 急に

ウ わずかに

エ 静かに

(b) おもむろに

ア 急いで

イ 冷静に

ウ 不意に

エ ゆっくりと

(c) おざなりな

ア いい加減な

イ ひかえめな

ウ 丁寧な

エ 熱心な

問二 部①「おれにも、マネジメントを手伝わせてくれないか?」とありますが、この時の「正義」の心情はどのようなものだと考えられますか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

①「おれにも、マネジメントを手伝わせてくれないか?」とありますが、この時の「正義」の心情はどのようなものだと考えられますか。その説明として最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

人で行っていたマネジメント会議に、正義も定期的に参加するようになった。

すると正義はそこでさまざまな取り組みを提案していった。これまで溜めてきたものを一気に吐き出すかのよう
に、次々とアイデアを提案し、またその実行にと動いていった。

(中略)

こうして野球部は、夏の大会に向けて一層雰囲気^{いっそうふんいき}を盛りあげていった。ここからの一ヶ月は、まさに怒濤^{どとう}のよう
に突き進んだ。部員たちは、かつて体験したことのないような質と量の練習を、かつて体験したことがないほどの
集中力でこなしていった。

やがて七月になり、いよいよ、夏の大会まであと一週間と迫った。

その日、野球部では夏の大会のベンチ入り選手が発表されることになっていた。練習が終わった夕暮れ時、グラ
ウンドのベンチの前に全ての部員が集合し、そこで、監督^{かんたく}の加地の口から一人ひとり、ベンチ入り選手が発表され
るとともに、背番号が配布されるのだ。

「これから、ベンチ入り選手を発表する。名前を呼ばれた者は、前に出て背番号を受け取るように」

その加地の言葉で、部員たちの間にはにわか^あに緊張が走った。ところが加地は、続けてこう告げた。

「その前に、ちょっと発表^せしたいことがある。キャプテン、前に出て来てくれ」

それを受けて、キャプテンの星出純^{しんじゅん}がみんなの前に進み出た。

すると、部員たちからはざわめきが湧き起こった。背番号を配布する前にキャプテンが何かを発表するというの
は、これまでなかったことだった。

そのざわめきが静まるのを待ってから、加地は言った。

「実は、星出がキャプテンを降りることになった」

それで、今度は「ええっ」というどよめきが起こった。それに対し、加地は続けてこう言った。

「ああ、といっても、別に部を辞めるわけではない。星出には、これまで通り部員としては続けてもらう。これは、
本人ともよく話し合って決めたことなんだ。本人も了承^{りやうじょう}済みのことだ。星出には、キャプテンを辞める代わりに、
試合やプレーに集中してもらうことになった。そうだな星出」

すると純は、黙^{だま}つてうなずいた。それを受け、加地はさらに言葉を続けた。

「では、次に新しいキャプテンを発表する。ちなみにその新キャプテンには、背番号10を与える。だから、名前を
呼ばれたら前に出て、これを受け取ってほしい」

そう言って、横に控^{ひか}えている文乃から受け取った、10番の背番号を掲^{かか}げてみせた。

ア マネジメントを進めていくほどに自分よりも他の部
員たちの方が実力を伸ばすという皮肉な結果に、選手
になりたいという思いがなくなり、新たな形で自分の
居場所を探そうとしている。

イ マネジメントについてアドバイスをするうちにさま
ざまなアイデアが浮かんできて、それを実現させるた
めには一刻も早くマネジメントチームに入らなければ
ならないと焦^{あせ}っている。

ウ 部員の誰よりも野球が下手だったため、早く選手で
はなくマネージャーとしてチームのために働きたいと
考えていたが、正直にその気持ちをみなみに伝えるこ
とを恥^はずかしく思っている。

エ レギュラーになって実力で勝負したいという思いを
持っていたが、それをあきらめてでも自分がマネジメ
ントに本格的に力をそそぎ、チームとして強くなるこ
とを優先させようと思っている。

問三 ———— 部②「発表したいこと」とはどのようなこと

ですか。「〜ということ。」につながるように、二十字
以内で本文から抜き出しなさい。

それで、ざわめいていた部員たちは、今度は一転、(③)を打ったように静まり返った。加地は、その静まったのを確かめてから、おもむろにこう言った。

「新キャプテンは、二階正義」

それで、今度は「おおっ！」という歓声^{かんせい}が方々からあがった。そうして部員たちは、正義の姿を捜^{さが}したのだけれど、すぐには見つけられなかった。部員たちの列に、正義の姿はなかったからだ。

正義は、部員たちとは別の、女子マネージャーたちの列に並んでいた。その一番端のみなみの隣にいて、今加地が言った言葉を聞き、口^{くち}をポカンと開けていた。

正義は驚いていた。彼は、自分が新キャプテンに指名されることを知らなかった。そればかりか、自分がベンチ入りのメンバーに選ばれるとも思っていなかった。だから、部員たちからはあえて離れた場所に立ち、マネージャーの一人としてその発表を見守っていたのだ。

そんな正義をようやく見つけた部員たちは、興味深げな眼差^{まなざし}で見つめた。すると正義は、まだポカンとした表情のまま、それらの視線を不思議そうに見返した。それから、辺り^{あたり}をきよろきよろと見回して、最後に隣^{となり}に立っていたみなみの顔を見た。

そんな正義に、みなみはこう言った。

「ほら。二階くんの名前が呼ばれたわよ」

それで正義も、ようやく「あ、うん」と返事をする、おずおずと前に進み出た。そうして加地の前に立ったのだけれど、この時はもうポカンとはしておらず、顔をぎこちなくこわばらせていた。

加地は、正義に10番の背番号を手渡す、とこう言った。

「おめでとう、新キャプテン」

すると正義は、やっぱり顔をこわばらせたまま、それを恭^{うやや}しく両手で受け取った。

その時だった。突然、部員たちの間から拍手^{はくしゅ}が湧き起こった。しかもそれは、おざなりなバラバラとしたものではなく、熱く、心のこもった、大きな音のものであった。

それで、感極^{かんごく}まった正義は、込みあげてくるものを抑えることができず、もらったばかりの背番号で顔を覆^{おほ}った。すると、そんな正義を面白^{おもしろ}がって、部員たちの拍手は一段と大きくなった。おかげで正義は、その背番号からなかなか顔をあげることができなかった。

そんな正義を見つめながら、みなみは不意に、「このチームは甲子園に行く」ということを予感した。

それは突然のことだった。みなみはこれまで、野球部が甲子園に行くことを強く願ってはいたものの、それを予感したことは一度もなかった。それは、心のどこかではまだ「本当に行けるのか？」と不安に思っていたからだ。この時はなぜか、それをありありと予感することができたのだ。

問四 空欄(③)に当てはまる言葉として適当なもの

を、次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 球 イ 手 ウ 水 エ 膝^{ひざ}

問五 _____ 部④「口をポカンと開けていた」とあります

が、なぜですか。説明しなさい。

問六 _____ 部⑤「背番号からなかなか顔をあげることが

できなかった」とありますが、なぜですか。説明しな

さい。

そのことに、みなみは自分で驚かされた。それで思わず「あつ」と声をあげると、まだ泣きやまない正義と、それを温かな拍手で包む野球部員とを、呆然^{ほうぜん}と見つめていたのだった。

岩崎夏海「もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら」

(注1) マネジメント——ここでは野球をうまく運営するといった意味。

(注2) 造詣が深い——詳しいこと。

(注3) ベンチ入り——試合の出場メンバーに選ばれること。

問七——部⑥「このチームは甲子園に行く」とありま

すが、このように予感したのはなぜだと考えられますか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 正義は一度も試合に出場したことがないが、毎日コツコツと努力を続けてきたことを部員たちは知っていたから。

イ 正義が新キャプテンに選ばれたことについて、部員たち全員が心から喜び、認めることができていたから。

ウ 正義が感動のあまり顔を上げられなくなったのに対し、部員たちが一丸となって面白がり、拍手をしたから。

エ 正義がキャプテンになることで、今まで半信半疑だった甲子園出場が、部員たちにとって身近なものとなったから。

三

部のカタカナは漢字に直し、漢字はその読みをひらがなで答えなさい。

- ① 帰省客で満員の列車。
- ② 寸法を計る。
- ③ 往来がはげしい道。
- ④ 血色の良い顔。
- ⑤ 会社につとめる。
- ⑥ おレイにみかんジュースをいただいた。
- ⑦ 外国からのシシヤをもてなす。
- ⑧ 興味・カンシンを引く。
- ⑨ アツい壁を破る。
- ⑩ 事故現場でウオウサオウする。

